

平成 29 年 10 月 24 日

各 位

会社名 国際石油開発帝石株式会社
代表者名 代表取締役社長 北村 俊昭
(コード番号 1605 東証第一部)
問合せ先 広報・IR エグゼクティブ・マネージャー 細野 宗宏
電話番号 03-5572-0233

オーストラリア イクシス LNG プロジェクト
直江津 LNG 基地向け LNG 船の命名式について

国際石油開発帝石株式会社（以下、当社）は、オーストラリア連邦において操業主体（オペレーター）としてプロジェクトパートナーと共にイクシスLNGプロジェクト（以下、本プロジェクト）の開発作業を進めており、今般、本プロジェクトから生産されるLNGのうち、当社引き取り分のLNG年間約90万トンを当社の直江津LNG基地（新潟県上越市）へ輸送するためのLNG船（以下、本船）の命名式が、本船の建造地である三菱重工業株式会社（以下、三菱重工）の長崎造船所（長崎県長崎市）にて本日執り行われましたので、お知らせいたします。

本船は、本年9月1日に命名式（※）が執り行われた台湾CPC向けLNG船「パシフィック・ブリーズ（PACIFIC BREEZE）」に続き、当社グループが本プロジェクトから生産されるLNGを輸送するために備船する2隻目の船となります。

※2017年9月1日付で公表：<http://www.inpex.co.jp/news/pdf/2017/20170901.pdf>



「命名式 式典」

国際石油開発帝石株式会社

INPEX CORPORATION

命名式は、本プロジェクトに関わる多数の来賓ご臨席の下、本船は「オセアニック・ブリーズ (OCEANIC BREEZE)」と命名されました。当社からは北村代表取締役社長が本船の命名者として出席しました。

本船は、当社子会社インペックス・ SHIPPING株式会社 (以下、IS社) と川崎汽船株式会社 (以下、川崎汽船) との共同出資会社Oceanic Breeze LNG Transport S. A.社 (IS社 : 30%、川崎汽船 : 70%。以下、OBLT社) をオーナーとして三菱重工との間で締結された造船契約に基づき新造されました。当社は、IS社を通じて、OBLT社との間で本船の定期傭船契約を締結しており、本船は、本プロジェクトからのLNGの出荷開始に合わせて就航する予定です。

本船は、約155,300立方メートルのタンク容量を有し、モス方式球形タンクを船体と一体構造のカバーで覆う「さやえんどう」 (※) 型の船型を採用しています。これにより、船全体の強度を確保しながら軽量化を図るとともに、航行中の風圧による抵抗を大幅に軽減し、更には、主機関に蒸気を再度加熱利用する新型蒸気タービン機関を採用することにより、従来型のタービン船と比べ大幅な燃費低減を実現し、二酸化炭素排出量の抑制と輸送コストの低減が期待されます。

(※) 三菱重工の最新型LNG船の呼称

本船の引渡しにより、本プロジェクトから生産されるLNGの輸送体制がより確実なものとなり、当社が中長期ビジョンで当社成長目標のひとつとして掲げる、本プロジェクトを始めとする海外の天然ガス供給源と国内ガス市場を結ぶ「ガスサプライチェーンの強化」が更に促進されることとなります。

当社は、本プロジェクトに関係する地域コミュニティの方々、連邦政府、西豪州政府及び北部準州政府等のオーストラリアの関係者やプロジェクト関係者の方々のご理解とご協力を得ながら、このプロジェクトの成功に向けて引き続きまい進する所存です。

以上

イクシス LNG プロジェクト

イクシスLNGプロジェクトは、当社が操業主体 (オペレーター、参加権益比率 : 62.245%) としてトタル社 (同 : 30%)、台湾中油 (CPC、同 : 2.625%)、東京ガス (同 : 1.575%)、大阪ガス (同 : 1.2%)、関西電力 (同 : 1.2%)、JERA (同 : 0.735%) 及び東邦ガス (同 : 0.42%) と共に、オーストラリア連邦西豪州沖合に位置するイクシスガス・コンデンセート田より産出される天然ガスを、オーストラリア連邦北部準州のダーウィンに建設する陸上ガス液化プラントにて液化し、年間約890万トンのLNG及び年間約165万トンのLPGとして生産・出荷すると共に、沖合生産・貯油出荷施設 (FPSO) 等から日量約10万バレル (ピーク時) のコンデンセートを生産・出荷する計画です。本プロジェクトは、40年という長期にわたって稼働が見込まれる世界的にも大規模なLNGプロジェクトです。当社は、1998年の公開入札により本プロジェクトが位置する鉱区の探鉱権を取得、その後の探鉱・

国際石油開発帝石株式会社

INPEX CORPORATION

評価作業や基本設計作業等の開発検討作業を経て2012年1月に最終投資決定しました。今後、現地にて沖合施設の設置作業やコミッショニング作業を行い、井戸からの生産を開始します。以降、2018年3月期中にコンデンサート・液化天然ガス（LNG）・液化石油ガス（LPG）の生産を順次開始し、その後、生産物を出荷していく予定です。